

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	通過障害を伴う切除不能食道癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の有効性、安全性の検討
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	富山大学 附属病院 第三内科 安藤孝将
研究の概要	<p>【研究対象者】 2021年11月から2023年12月までに当院で通過障害を呈する切除不能食道癌に対してニボルマブ/ペムブロリズマブ+5-FU+シスプラチンもしくはニボルマブ+イピリムマブ療法を受けた方</p> <p>【研究の目的・意義】 食道癌の進行に伴い、悪性腫瘍自体や転移性リンパ節による壁外性圧排で通過障害を生じることがあります。通過障害を有する切除不能進行食道癌に対しては、緩和的放射線療法の有効性が示されており、本邦の診療ガイドラインにおいても推奨される治療法の一つとして位置付けられています。一方、切除不能進行・再発食道癌に対する一次治療として、免疫チェックポイント阻害薬併用療法の有効性が示されましたが、通過障害を有する症例は除外されており、原発巣や通過障害に対する有効性については検討されていません。</p> <p>通過障害を有する切除不能食道癌に対して免疫チェックポイント阻害薬併用療法が有効かつ安全に投与できるかどうかを検討することは、日常臨床で治療方針を決定する際の重要な資料となり、臨床的意義は大きいと考えられます。</p> <p>【研究の方法】 後ろ向き観察研究で、対象期間中における対象患者における患者基本情報、問診情報、身体所見、検査データ、画像所見データ、治療関連データを診療録から収集し、研究代表者が解析します。</p> <p>【研究期間】 研究実施許可日から2025年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 研究結果は消化器系学会または論文で発表の方針です。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	<p>本研究に試料は用いません。情報は以下の項目を用います。 性別、年齢などの基本情報、臨床経過、既往歴などの問診情報、身長、体重、Performance Status、PD-L1、通過障害スコア（Dysphagia score）内視鏡検査所見、CT検査所見などの画像所見データ、病理所見、処方、注射、手術などの治療関連データ、irAEの発生など。</p> <p>他機関への提供は行いません。また、研究で得られた情報は、胃がんの将来の研究のために二次利用される可能性があります。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>富山大学附属病院病院長 林篤志 宮崎大学医学部附属病院病院長 帖佐悦男 富山県立中央病院病院長 臼田和生</p>
研究資料の開示	<p>研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。</p>
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学 附属病院 安藤孝将
研究対象者、親族等関	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関す</p>

係者からの相談等への 対応窓口	る相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7301 E-mail <a href="mailto:yurika@med.u-toyama.ac.jp">yurika@med.u-toyama.ac.jp</a> 担当者所属・氏名 富山大学附属病院第三内科 中山優吏佳
--------------------	---